

学校教育目標

『思いやりの心を持ち すすんで学び たくましく生きる子どもの育成』

- 思いやりの心を持ち、相手の身になって行動できる子ども (徳…やさしく)
- すすんで学び、豊かな思考力と表現力をもつ子ども (知…かしこく)
- 健康でたくましく、最後までやり遂げる子ども (体…たくましく)

(1) 教職員一人一人が大切にしたいこと

「教育の秘訣は子どもを尊敬するにあり
ゆめ子どもの欠点の看破者たるなかれ」～エマーソン～
「ひとりの子どもの粗末にするとき、教育はその光を失う」
～安部清美～

(2) このような学校をつくる

- 教職員が勤めたい学校 ※子どもが通いたい学校
- 保護者が通わせたい学校 地域の方が足を運びたい学校

(3) 具体的な取組

“思いやりの樹” (やさしく)

心豊かで自らを律し、自他の違いを認め合い、相手の立場に立って考え、判断し、行動できる思いやりの心をもつ子どもを育成していく。

◇ 生徒指導の充実

共感的な子ども理解に立って、問題事象の解決に取り組む中で、自他を尊重する心を高め、人と人との結びつきを大切にする好ましい人間関係を形成していく。

① 学年・学級目標に向かった「いじめ」のない、温かい学級づくり

- ・ 「鍛える」、「ほめる」、「認める」ことを中心に据えた最高の指導を目指す。(理由付けをしてほめる、認める)
- ・ 指導の終末は新たな意欲をもたせることを目指す。怒りっぱなし ××
- ・ 全体指導の場、個人指導の場、子ども同士で考えさせる指導の場を見極める。(どのようにすれば次に同じような問題は起きないのか・・・時系列で板書)
- ・ 合言葉「教師も子どもも『あったか言葉』」を使用する。見える化

㊦ありがとう ㊧っしょに ㊨ごいね ㊩んぼろう
㊪てき ㊫にしなくていいよ ㊬いじょうぶ

② 学級集団づくりに関する学年研修の充実を図る(同学年会がポイント)。

(こんな教室を創りましょう・・・教師の姿勢が大切)

- ・ 笑顔の絶えない教室・・・1時間に1回は「笑い」のある授業を
- ・ 教師が子どもの よい姿を親ようとする姿勢 ⇒ 子どもの成功体験
- ・ 共に考え、共に汗を流し、共に喜び合う教室（支持的風土）
- ・ 互いの努力やよいところを認め合う教室
(あったか言葉の木の積極的な活用)

③「心と体のアンケート」の実施と教育相談の充実を図る。

- ・ 心と体のアンケートの実施（月1回）と教育相談の充実
- ・ スクールカウンセラー（月1～2回）や関係機関との連携

④人権教育の充実を図る。

- ・ 人権教育研修の実施 ・ 人権講演会の実施
- ・ 「北九州子どもつながりプログラム」の活用

⑤「あこがれ」と「夢や希望」をもたせる。

- ・ あこがれをもたれる5、6年生 ・ 多くの職業名人との交流（6年）
- ・ 上津役博士との交流（3年）・・・郷土愛



◇ 「生活がんばりカード」の活用

(家庭での規則正しい生活、学習や読書の習慣化)・・・二極化への対応!

- ・ 低学年段階からの徹底
- ・ 事前、時中、事後の働きかけの重視

◇ 特別支援教育の充実

特別支援学級及び障害のある児童への理解と支援を進めると共に、通常の学級における児童の特性を捉え、教育的なニーズに応じた指導を充実していく。

①子どもの困った感の取り除き ⇔ 個別の指導、支援計画の作成

教師の姿勢・・・「子どものその行動には必ず理由がある」

(テレビドラマ「ガリレオ」の

湯川学准教授的なとらえ)

「困った子ではなく、困っている子」

※その困った感を取り除く手だてを考える!・・・プロの仕事

教育相談の報告書を積極的に活用する!

②特別支援教育研修の実施（年間3回以上）+状況に応じたケース会議の実施
(学年、特別支援教育部、関係機関等がタイアップし、チームで対応)

③多層指導モデルMIMの活用・・・読みのアセスメント・指導

④担任のソーシャルスキルトレーニングの指導技術の習得

(八幡特別支援学校の支援、特支課、教育センター研修の受講、校内研修等)

“学びの樹” (かしこく)

基礎的・基本的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現したり、伝えたりしながら、意欲的に学習に取り組む子どもを育成していく。

◇ 上津役スタンダードの共通理解と確実な実施

上津役スタンダードを大切にすることで、各学年、各学級が基本的に同じ方向性や意図をもって指導を行っていくことで、教育の質的向上を目指す。

- ・学習規律について
- ・**家庭学習**について
- ・話し合い方について
- ・教室環境について 等

上津役スタンダードを身につけた子ども

◇ 「分かる授業」づくり5つのポイントの重視

- 学び合いの基盤・・・支持的風土づくり
- 板書には、必ず「めあて」、「まとめ」と「ふりかえり」
- 子どもの思考を深める「発問」の工夫
- 1単位時間の中に「話し合う活動」と「書く活動」
- 「まとめ」と「振り返り」終わりの5分の確保

◇ ノート指導の充実

- ・ノート指導の統一と充実 (よいノートの掲示)
- ・話し合う活動の充実が鍵
- ・同学年会は、ノートを見せ合い、学び合う場

◇ 国語科授業の充実

- ・国語科の学習指導と総合的な学習の時間との関連的な指導
- ・学年内での学習指導法の共有とさらなる工夫

◇ 学力定着の実態分析と更なる定着を目指す手だて

- ・北九州市学力定着サポートシステムの活用 (診断テストの実施)
- ・活用力を高めるワーク等の**既存の問題プリント**の活用

◇ 読書活動の充実

毎日の10分間読書の着実な実施や図書室の活用、家読を推奨していくことで、読書を好み、進んで読書しようとする望ましい読書習慣を形成していく。

- ・ブックトークの実施 (全学年)
- ・図書委員会によるはたらきかけ “読書へのいざない”



◇ ひまわり学習塾、ニコニコ学習教室の実施

- ・学年の教師1名は学習の様子を見て、サポートや声かけをする。

“元気の樹”（たくましく）

基礎的な体力と健康・安全及び礼節に関する知識と態度を有し、生涯にわたって心身ともに健康で安全に過ごすことのできる生活力豊かな子どもを育成していく。

◇ 体力の向上

新体力テストの実施結果や本校の児童の生活実態等から課題を明らかにし、日常の体育学習等で課題克服のために継続的な取組を実施する。

年間を通じた体力向上策の実施

- ・北九州キッズダンスの実施 ※ 走力の向上（体育部会で話し合い、実施を）
- ・体育科の授業の充実 ・縄跳びの取組の充実 ・外遊びの励行
- ・北九州市体力向上プログラム ・マラソン大会の取組 ・体力テストへの取組の充実

◇ 健康の保持増進

- ・食育の充実 ・給食指導の充実 ・早寝、早起き、朝ごはん
- ・肥満の状況にある子どもの状況改善

◇ あいさつの励行

学校や家庭、地域で、進んであいさつができ、場や相手に応じたマナーや礼儀に心がけ、「ありがとう」が言える児童をはぐくんでいく。

- ・自分から進んであいさつができる子ども
- ・楽しくあいさつ運動・・・計画委員会を中心に
- ・経済界による小学校応援団事業の活用
- ・言葉遣いの指導（先生≠友達）

◇ 安全・安心の充実

学校事故防止のために、日常的な安全点検と学級活動等での安全指導を行い、ルールを守り、安全・安心に過ごす態度と実践力をはぐくんでいく。・・・規範意識の向上！

◇ 当たり前のことを当たり前

- ・上津役中学校区のきまり（上津役中、大原小、上津役小）
- ・チャイムで行動すること、話し手を大切に話の聞き方、教室移動の際の配慮、下足室の靴揃え、雑巾の整理されたかけ方 など



◇ 保護者や地域の方との連携、スクールヘルパーの方との連携

- ・教育活動への参画の充実（青木先生、教員を目指す学生、上津役博士、職業名人などの地域の方の活用）
- ・学級担任、図書館職員とブックヘルパーの方との連携
- ・地域の見守りを行ってくださっている方や安全ヘルパーの方との意見交換
- ・経済界による小学校応援団との連携（子ども、職員、保護者対象）

◇ 不祥事〇

学校への信頼を損ない、個人の利益を失う不祥事は、「絶対しない」「起こさない」という固い決意をもつ。

- ・飲酒運転・酒気帯び運転を絶対しない。（飲酒量と飲酒時間を十分考慮し、運転をする。アルコールチェッカーを個人購入する、または貸し出す。）
- ・個人情報漏洩を防止する。（プリント、ノート、電子データ、ネットへの書き込みをしない）
- ・体罰をしない。
- ・ハラスメントをしない。

◇ 働き方改革（ワークライフバランスの重視）

○退庁は、遅くとも互いに声をかけ合う。

（管理職、教務主任、学年主任を中心に）

- 定時退校日の確実な実施（18時までに退庁・・・「いっせいくん」で周知）
- 標準職務表を大切にされた協力体制を確立する。
- スクール・サポート・スタッフとの連携を図る。
- 外国語科、外国語活動での専科指導を行う。
- 算数科や体育科、家庭科等でのティームティーチングを行う。
- 学年で使う資料等は、共有できるようにする。
- 必要なとき以外は、休日の出勤は控える。